

茶屋

籠 冬一

羽公尾村

冬籠

村尾公羽

まはり出七層塔台や袖詣

會堂の重き扉や冬籠

追ひ進ま豆まめ削はね七め七や十は深

湖田川や冬ふゆのま中なかの規舟

極月や瀬田の茶店の規汁

やうやくかくかるか電話や冬籠にり

霜晴やかよいかくより落葉塔かき

たちまちに日正月の籠かひか存



浴ゆ外がいの師し走は日ひ和わにに遊あそびひけけり

追ひ進ま豆まめ撒まきおさめたる年とし柳やなぎが存